

温州ミカン「おおいた早生」の樹冠表層摘果による日焼け果発生軽減

農業研究部 果樹グループ

1. 研究の背景

近年、温暖化による夏期の高温、強日射により温州ミカンの日焼け果が増加しているため、樹冠表層摘果による「おおいた早生」の日焼け果軽減効果と収穫時の収量、品質について検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

温州ミカン「おおいた早生」は、7月中旬頃に粗摘果を葉果比10で行い、8月上旬に樹冠の表層を中心に仕上げ摘果を葉果比20で行うことにより、日焼け果の発生を軽減できる。

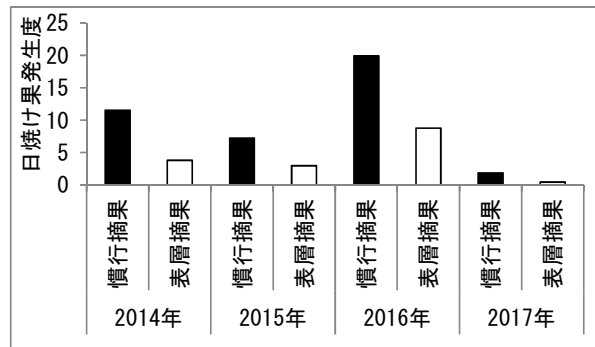
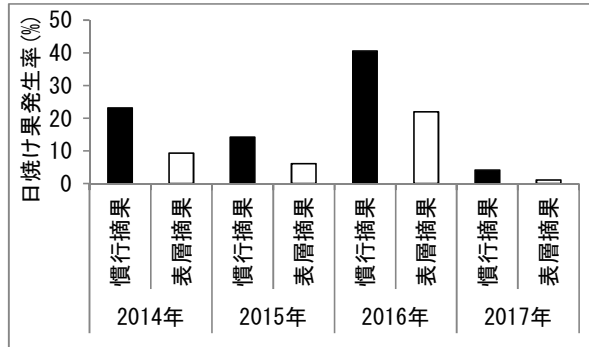


図1 「おおいた早生」の日焼け果発生率 (2014~2017年) 図2 「おおいた早生」の日焼け果発生度^{※3} (2014~2017年)

表1 「おおいた早生」の収穫時の果実品質、収量、日焼け発生率及び発生程度 (2016年)

	Brix	クエン酸	収量 kg	日焼け発生率 (%)	日焼け発生度 ^{※3}
樹冠表層摘果 (7中10・8上30) ^{※1}	9.6	0.83	21.0	20.0b	7.6b
樹冠表層摘果 (7中15・8上20)	8.6	0.90	27.1	24.7b	10.7b
樹冠表層摘果 (7中15・8上30)	9.7	0.87	23.5	21.1b	8.0b
慣行摘果 (7中10・8上20)	8.7	0.80	29.5	40.6a	19.9a
	^{※2} n. s.	n. s.		*	*

※1：摘果の(月、旬、葉果比)、(7中10)は7月中旬に葉果比10で摘果したことを表す。
 ※2：Tukey検定により*は異符号間で5%水準の有意差があることを、n. s. は有意差がないことを表す。
 ※3：日焼け果発生度は、無、軽、中、甚の4段階で評価し下記の式で計算した。

$$\frac{\text{無} \times 0 + \text{軽} \times 1 + \text{中} \times 2 + \text{甚} \times 3}{\text{調査果数} \times 3}$$

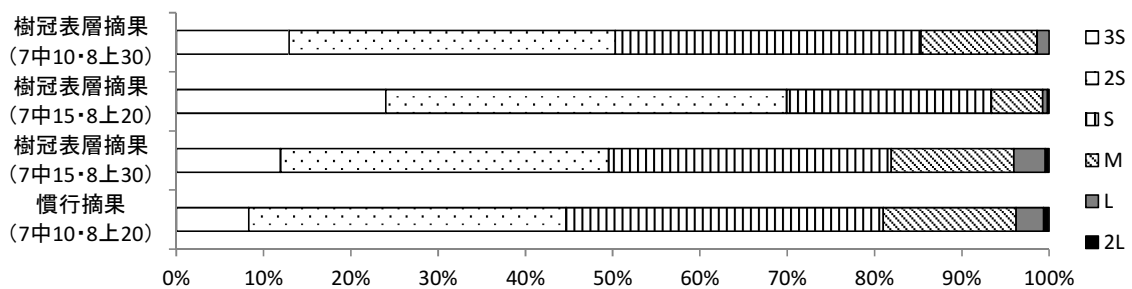


図3 「おおいた早生」の収穫時の階級割合 (2016年)

3. 期待される効果

・温州ミカン「おおいた早生」で樹冠表層摘果を行うことにより、日焼け果発生が軽減できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム
 TEL：0978-72-0407
 住所：国東市国東町小原4402



写真 日焼け果